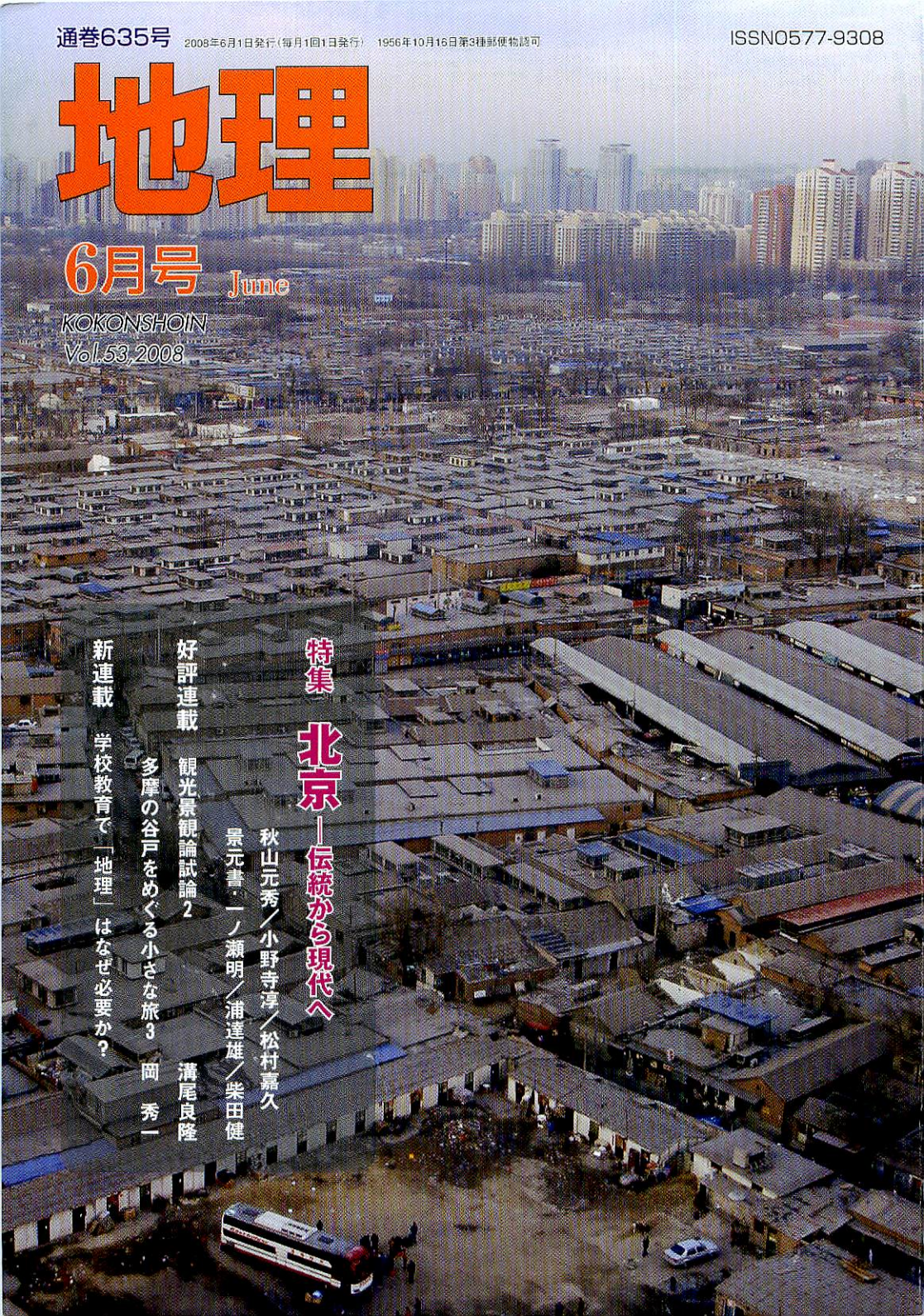
通巻635号 2008年6月1日発行（毎月1回1日発行） 1956年10月16日第3種郵便物認可 ISSN0577-9308

地理

6月号 June

KOKONSHOIN
Vol.53,2008



特集

北京—伝統から現代へ

秋山元秀／小野寺淳／松村嘉久
景元書・一ノ瀬明／浦達雄／柴田健

好評連載

観光景観論試論2

多摩の谷戸をめぐる小さな旅3 溝尾良隆

新連載

学校教育で「地理」はなぜ必要か？ 岡 秀一

北京—インナーシティとスラムのクリアランス

〈本文参照〉

松村嘉久

写真１　河南村スラムの無認可小学校での授業風景（2002年８月15日撮影）．
無認可小学校をいくつか訪問したが，どこもしっかりとした授業をしていた．授業料は年間300元から600元．河北省出身の校長は読み書きができなかった．だからこそ，スラムの子どもたちの将来を考え開校したという．

写真２　天壇近くのインナーシティの風景（2007年８月12日撮影）．
路上の売り子は出稼ぎ労働者で壮年層が多いが，買い物に来るインナーシティ住民は高齢者が多い．中国の社会保障制度はなかなか整備が進まないが，一人っ子政策のなか人口の高齢化は急速に進みつつある．

写真３　地下鉄10号線の工事が進むかつての太陽宮スラム（2007年３月11日撮影）．
かつて巨大なスラムであった太陽宮は，地下鉄10・13号線，京承高速，太陽宮公園，高層マンション群の建設で生まれ変わりつつある．出稼ぎ労働者が立ち退いた跡地の飯場に，地下鉄建設の出稼ぎ労働者が入る．

→写真４　再開発にかかった大柵欄（2007年３月13日撮影）．
観光客の多い地域での再開発は，看板などで目隠しする．著名な観光地に向かう道路沿いのインナーシティやスラムは，高い塀や樹木で囲い込んだところも多い．「美しい」を見せようとする執念は，「醜い」を隠す．

←写真５　十八里店スラムの撤去現場のスローガン（2006年２月14日撮影）．
スラムの撤去現場のさまざまなスローガンは露骨で面白い．「延期は絶対にない，良いチャンスを失うな」．「チャンスをつかめためらうな，早く協議にサインし早く利益を受けよう」．「待つな見るな，撤去政策は変わらない」．脅し気味のものが多い．

写真６　浙江村スラムの大通り（2002年８月10日撮影）．
電脳綉花（コンピューター刺繍）や革ジャン加工の小規模な工場が通りに点在する．路上の野菜売りは河北省からの出稼ぎ労働者が多い．浙江村での起業で大成功した者もいて，一獲千金を夢見る若者が流入する．

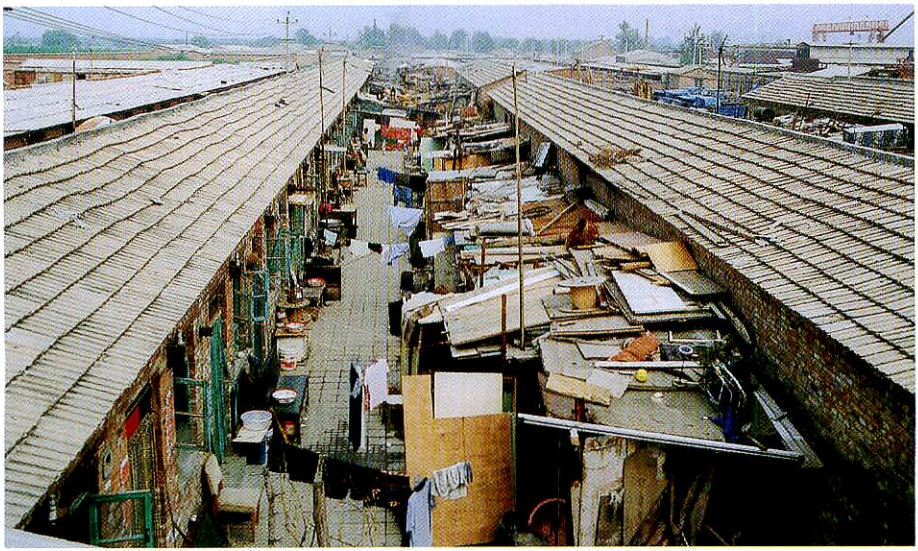
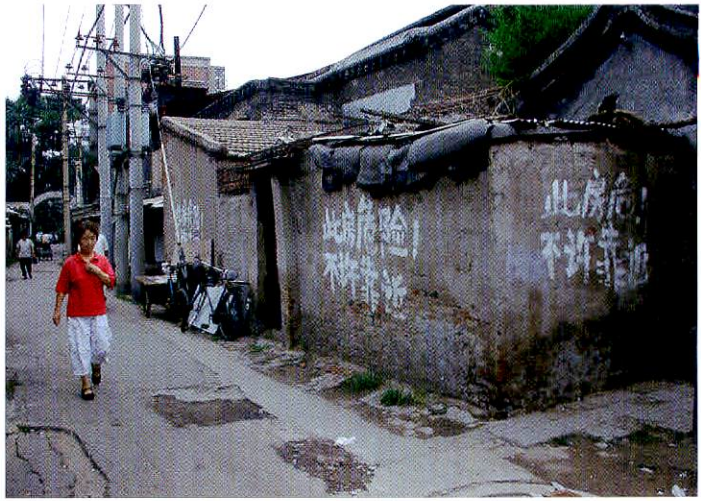


写真７　オリンピック公園内にあった河南村スラム（2002年８月15日撮影）．
部屋は６畳くらいの広さで，家族で住む．家賃は2002年当時で月500元程度．食事の準備などは外で行う．建物の壁も利用して部屋を作っている．こちらが賃貸されると月150元くらい．

→写真8　前門インナーシティの危険家屋（2007年8月12日撮影）．
壁には「この家危険！近寄るな」と書かれている．天壇から前門にかけての地域と大柵欄には倒壊の危険性が高い老朽家屋が多い．



←写真9　スラムのなかの共同水場と共同トイレ（2008年2月23日撮影）．
共同トイレは汲み取り方式で間仕切りはない．隣の人や通路の人と挨拶をかわせるいわゆるニーハオトイレである．夏場の悪臭は強烈である．

→写真10　河南村スラムの四合院住宅の中庭（2002年8月15日撮影）．
資源ゴミは価格変動を見ながら，買取り業者に高値で売ろうとするため，四合院住宅の中庭に共同で一時保管する．資源ゴミ回収の収入で，賃貸住宅を借り子どもも育てられる．河南での農村生活より豊かだという．